助成事業完了報告書

事業 ID：2016344475
事業名：海洋環境に関する日米国際シンポジウム
団体名：一般社団法人セイラーズフォーザシー日本支局

事業内容：

1. 海洋環境保全に関するシンポジウム開催
(Japan-U.S. International Symposium for Ocean Conservation in Hawaii)
(1) 開催日：2016 年 8 月 22 日（月）10：00～16：00
(2)場　所：ホノルル　コンベンションセンター
(4)出席者：ハワイ州政府関係者・日本ハワイ友好議員連盟議員・ハワイ海洋保全団体・財団法人・研究所・NPO/NGO 団体・Mery Knoll 高校生他学生・在ハワイ財界人・US-Japan Council メンバー等／合計 274 名

２．レセプションパーティーの開催
(1)開催日：2016 年 8 月 22 日（月）18：30～20：30
(2)概　要：ハワイ州政府観光局が主催し、ハワイ州政府関係者を始め、日本ハワイ友好議連の議員、現地の財団法人役員や日本の企業家などと、シンポジウムのパネリストや参加者らが、シンポジウムを受けての情報交換と交流を行った。
(3)場　所：ワシントンプレイス
(3)出席者： 183 名　シンポジウムパネリスト・参加者・スタッフを始め、ハワイ政府関係者、在ハワイ経財界

３．前日パネリスト打合せ及び夕食会
(1) 開催日： 2016 年 8 月 21 日（日）16：00～18：00　18：30～20：30
(2)目　的：シンポジウムの司会者、パネリスト、モデレーター等一同に介しての自己紹介と事前打合せ及び、US-Japan Council ホノルルメンバーとの交流
(3)場　所：司会者・比嘉文様自宅　及び　ポール与那嶺様宅
(4)参加者：シンポジウム登壇者、関係者（27 名）及びポール与那嶺氏のゲスト計 70 名程

事業目標の達成状況：

現在世界的に進行する海洋危機の問題を認識、共有し、海洋環境を主なテーマとして、日米両国の女性リーダー2 名の視点から、海洋環境保全の国際協力体制の構築に寄与することを目的として開催した本シンポジウムは、開催 3 カ月前より US-Japan Council 及び

Sailor for the Sea Japan の HP を通じて参加者の募集が行われ、300 名近くの申し込みがあった。

10 時から 16 時まで行われたシンポジウムは、冒頭、司会者である比嘉文氏から、本イベントの趣旨説明が行われ、本会議の提唱者であり、US-Japan Council 会長で、故ダニエル・イノウエ上院議員夫人のアイリーンヒラノイノウエ氏と、ハワイ州知事夫人の Ms. Dawn Amano-Ige の開会挨拶から始まった。続いて、同じく会議開催の提唱者の一人、日本国総理大臣令夫人の安倍昭恵氏による基調講演が行われた。安倍夫人は講演の中で、海洋国家であり、太平洋を共有する日本と米国・ハワイの海洋保全に対する相互理解の重要性について述べられた。また海洋に関する諸問題について、共に取り組んでいく必要性に言及し、ハワイの伝統文化は日本と共通するものがあり、自然への敬意を忘れてはならないことや、日本においては東日本大震災後の沿岸に、危機管理の観点から、防潮堤の建設が行われていることへの疑問。また、夫人が取り組んでおられる、地方再生のプロジェクト等、スライドと共に紹介された。

続いて、世界の海洋学者が最も注目している水族館、Monterey Bay Aquarium の理事、Julie Packard 氏によるゲストスピーチが行われ、第一部が終了した。

日本ハワイ友好議員連盟の太田房江議員と、同じく酒井康行議員、在ホノルル日本国総領事の三澤様の紹介がされ、第二部へと進行した。

第二部からは、二つのテーマに対し、基調講演が行われ、それを受けてパネルディスカッションの形式でシンポジウムが進められた。
最初のテーマは、“沿岸管理による海洋保全”で、浜松市の海岸でサンクチュアルエヌピーオー　代表の馬塚丈司氏より、日本の太平洋沿岸にやってくる、絶滅危惧種のアカウミガメの保護・調査活動を通じて、海洋環境、特に砂丘の保護活動を行う中で感じた、海岸環境に関する問題提議の発表が行われた。活動拠点となっている遠州灘海岸が 31 年前にどんな様子で、産卵にくるアカウミガメがどんな環境下であったのか。そして同団体がどう海岸法制定を行政に働きかけ、保護のために取組んだのかが、カメの生態と共に紹介され。安倍氏のスピーチにもあった、防潮堤についても、同じく遠州灘海岸で工事が進んでいることと併せて、スライドとともに問題提議がなされた。
これを受けて、現在 Packard Foundation の Deputy Director として海洋チームを牽引し、以前スタンフォード大学ロースクールで、環境資源学の Director として教鞭をとるなど、広く海洋環境への取組みを行っている Ms. Meg Caldwell がモデレーターとなり、パネリストに、ハワイ大学海洋生物学ハワイ研究所所長で、珊瑚やサンゴ礁の保全や研究の世界的権威 Dr. Ruth Gates と馬塚氏によるパネルディスカッションが行われた。

昼食をはさんで、“持続可能な海洋資源の消費”をテーマに、Monterey Bay Aquarium の提唱する、Seafood Watch について Dr. Margaret Spring より基調講演が行われた。地球温暖化や乱獲で枯渇する魚介類が増える中、未来のために健康な海を残すために、食べていい魚介類（ブルーシーフード）がどれなのかを知ることで、水産資源を保護し持続可能にするといった取り組み。大型魚は過去 50 年間で 96%も減少したが、この取組みにより数年間の漁獲制限で水産資源は回復するというもの。
この基調講演を受けて、Dr. Margaret Spring がモデレーターを務め、持続可能指数の創設者である Dr. Katrine Nakamura と Sailor for the Sea Japan の代表理事の井植美奈子氏がパネリストとして加わり、パネルディスカッションが行われた。

昼食後は、Sailor for the Sea の創設者である、David Rockefeller Jr 氏の奥様の、Susan Rockefeller が制作した、海洋支援の破壊・海からのメッセージを主題として短編映画“Mission of Mermaids”が上映された。

最後のセッションでは、安倍昭恵氏がモデレーターを務め、今回本シンポジウムへの奨学生を日本で募集し、海洋環境保護への取組みや今回のシンポジウムが掲げるテーマについてのエッセイと面接で選考された 2 名の学生、東京大学の辻匠氏と京都大学の山口祐介氏、そしてハワイ大学の学生 Mr. David Nakanishi と Ms. Jennifer Higa 計４名の学生をパネリストに、パネルディスカッションがおこなわれた。

全てのセッションを通して、会場から質問を受付け、質疑応答を行い閉会となった。
最後に、安倍昭恵氏が総評を行い、未来の子供達のために、海洋環境の改善のために、今すぐにできることをそれぞれが考え、行動を起こすべきであるということが確認でき、来年も日本でこのようなシンポジウムが開催できることを切望するという内容が発表された。続いて閉会の挨拶がアイリーンヒラノイノウエ氏により行われ、300 名に近い出席者とボランティアの協力により無事シンポジウムは終了。本シンポジウムを通じて、海洋環境の現状に関する、日米の認識の共有と、問題提起という、本事業の目的を達成した。

地元メディアにも新聞、TV 等でシンポジウム開催の紹介がされた。

事業成果物：
１．パンフレット　　２．参加証　　３．シンポジウム VTR　　４．報告書